



円山野外音楽堂で横断幕を掲げ市中デモに参加する国賠同盟一上。
総会で報告する原田 完府本部長一右。

(583号付録)
 京都版 第440号
 2023年1月15日
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 京都府本部
 〒604-8832京都市中京区
 壬生下溝町 51-41
 (電) 075-312-8787
 fax 075-325-3863
 info@kokubai-kyoto.com
 https://kokubai-kyoto.co

新年明けまして おめでとうございます！

「戦争か平和か」歴史的岐路の年！

新年明けましておめでとうございます。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟として、国家による謝罪と名誉の回復、被害賠償の一日も早い解決を目指して奮闘しましょう。

今の政治情勢は自民党政治があらゆる面で行き詰まり、自民党補完勢力の進出があり、残念ながら現状では市民と野党の共闘は、立憲が維新への接近で、あの安保法制の時の様な闘いとは大きく後退していると思います。国民の願いとかけ離れた事態への野党共闘をしっかりとしたものにするためにも私たちの運動が求められていると思います。

新型コロナウイルス対策の無策、円安、輸入物価の高騰、ロシヤのウクライナ侵略、急激な連続した物価高騰、中小企業の苦境、安倍政権以来13年で給与の24万円減少、毎年、年金の減額、医療費、介護利用料の値上がり前のめりな戦争する国への政権運営、大臣のドミノ辞任と国民生活は一層厳しい状況にあり岸田政権の支持率は急激に落ち込んでいます。

新型コロナウイルス感染が始まって3年がたち、いま第8派と言われる流行の中ですが、その対策は何一つ改善強化されることなく、対策の緩和がすすめられているのが現状です。国は急性期の病床ベット数が6000床を超える削減計画を強行しようとしています。

国民の命と健康を守るより、医療費削減を進め、その一方で軍事費増強には前のめりなっています。京都府民の命と健康でも、この間多くの高齢者施設で新型コロナウイルスの感染拡大でクラスターの発生が起きましたが、入院もできず施設に留め置かれ、命を落とした高齢者は122人に及びました。

入院要請しても入院先が決まらず、施設職員はただ見守ることしか出来ず、助けられる命を守る事が出来ない無力感と、本来の医療行為の崩壊で苦しむ結果となっている現状に、怨嗟と怒りの声があがっています。私たちの運動はその役割が大きくなってきている政治情勢にあるのではないのでしょうか。

特に戦争へのめりな岸田内閣が閣議決定した2023年度予算案は、「戦後の安全保障政策の大転換」を掲げて「専守防

衛」を完全になくすり捨てることを宣言した「安保3文書」にもとづいて、軍事費は6兆8219億円に達しました。過去最大だった前年度の5兆4005億円から一気に1兆4214億円もの上積みです。

軍事費は12年末に第2次安倍晋三政権が発足して以来、連続して拡大されてきました。この10年で増えた総額は約6900億円です。これに対し今回はその2倍を超える1兆4000億円もの増額を単年度で強行します。空前の歴史的大軍拡です。憲法の恒久平和主義に基づく戦後日本のあり方を根本から変え、日米軍事同盟を一層強化する下で「戦争国家づくり」の道をさらに突き進もうとする暴挙です

相手国のミサイル発射拠点などを直接たく敵基地攻撃能力について「相手の領域において、

我が国が有効な反撃を加えることを可能とする。自衛隊の能力」と規定し、そうした「反撃能力を保有する必要がある」と明記しました。戦後一貫して、他国を攻撃できる兵器の保有は「憲法の趣旨とするところではない」としてきた政府見解を乱暴に覆すものです。

「反撃能力」は「平和安全法制に際して示された武力の行使の三要件」を満たせば行使できるとし、2015年に成立が強行された安保法制で可能になった集団的自衛権の行使の際にも発動されることを明確にしました。

米国が始めた戦争で、日本は武力攻撃を受けていないのに、自衛隊が米軍を支援するため、相手国領内に敵基地攻撃をすることができるようになります。政府が「憲法の本質にのっとつた受動的な防衛戦略」として掲

げてきた「専守防衛」を完全に有名無実にするものです

2023年度以降の大軍拡の財源を確保するため、増税や国債発行を手あたり次第に打ち出そうとしています。歴代政権ができないとしてきた立場を覆し、暮らし、憲法、平和を破壊する暴挙です。

治安維持法犠牲者の先人の人々の、あの戦前の厳しい中でも命を賭して、平和を思い、主権者としての国民の権利、社会変革への思いにしっかりと応え、今年の統一地方選挙での勝利、自民党政治の悪政ストップ、治安維持法犠牲者への謝罪と補償の実現に向けた戦いに力を合わせ、頑張りましょう。

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

京都府本部長 原田 完

嵐の中の 赤いバラたち

—京大附属病院

看護婦ストーリー

治安維持法 国賠同盟

京都・副会長

佐藤 和夫

はじめに—1930年という時代状況について

1929年10月24日のニューヨークの株式市場の大暴落から始まった世界大恐慌が日本に波及し、浜口雄幸内閣は産業合理化政策をすすめた。産業界は全国に首切り・賃下げ・時間延長・労働強化など労働者の犠牲で危機を乗り切ろうとし、巷に150万の失業者があふれた。ところが共産党や全協は極左的偏向としての「武装デモ」を提起し、組織内から客観的な条件の成熟

に見合う主体的条件の未形成が提起され、全協中央の指導力は弱体化していた。反戦闘争デーのカンパニアも少数分子の「チャンバラ闘争」と指摘されるしまただった。(参照…「日本労働組合運動史」渡部徹著・1954年刊)

谷口善太郎の小説「清水焼風景」もそうした時代背景を描いているが、労働者や農民や都市勤労市民の窮乏化や急進化が進んだが、生活基盤に深く根を張る指導が求められていた。

このような社会的状況を映画界は、幾分か左翼的な気分をこめた「傾向映画」を立て続けて制作しヒットさせた。小津安二郎監督の「大学は出たけれど」とか、鈴木重吉監督の「何が彼女をそうさせたか」などなど。まさに、我が京都でも「何が彼女をそうさせたか」なのだ。①事件の発端—京大当局から特

高への通報によれば、京大生との「読書会」からか1930(昭和5)12月11日の夜、京大附属病院の看護婦の一部は病院内寄宿舎に於いて、突如窓ガラスその他の器物を破壊する等の暴行をした。

本件の背後に活動するものの真相に付き調査したところ、京大生との関係はだいたい左の如くにして直接関係者なき事判明した。昨年6月中旬に(補注・結核により)入院した法二の藻谷小一郎は本件の首謀者と目される元看護婦広田喜代子、滝川くに枝、梅本すすると隣室に於いて読書会を組織し自らこれを指導し退院規制の際、後を経三の平井洋三に依頼した。平井は市内某所に前記看護婦を集め、数回読書会を開いた。かつて、入院したことのある経二の脇英夫もチューター引継ぎ方いらいされたが、拒絶したという。

9月に至り京都ナツプ地域協議会日本労働組合全国協議会幹部某が直接指導者となり、今回の事件は全協の指令により起こったものの如く、当日散布したビラには日本労働組合全国協議会医務労働組合京都支部準備会の署名があった。

現在までに判明した範囲に於いては学生にして事件に直接関係するものはなく、前記藻谷小一郎は12月14日に検束され、平井は京津電車転覆事件に関する犯人蔵匿の嫌疑により取り調べをうけたが、何れも本件には直接の関係ないため、釈放された。(解題…『学生思想事件一覽』第二輯p55〜57、「京都帝国大学学生運動史」より転載し、現代訳にした)

(補注・特高警察は藻谷も平井も、昭和5年当時の京都地方学生グループ組織形態図として把握して。当時、社研は192

8年4月18日に大学当局から解散を命じられ、その後非公然で社研活動を続け、1930年前後に共青指導下に移行しつつあった (次号につづく)

1月14日、第11回京都治安維持法研究会を開催しました!

1月14日午後、府本部は、11回目の治安維持法研究会を開催しました。国会請願の第3項目で「国は治安維持法による犠牲の実態を調査し、その内容を公表すること」を求めています。

しかし国が取りくまない下で私たちは自らの力で治安維持法等による弾圧の実態を明らかにしようと、2009年第34回全国大会で「治安維持法等犠牲者の名簿作成」を呼びかけまし

た。京都では、当初系統的な作業に成功していませんでしたが、大学の研究者の方々の援助も受ける中で進めてきました。

各種名簿から抽出した名簿へ「特高・思想月報」から諸項目の打ち込み作業開始と事件の総括執筆の段階です。

作業、執筆には多大の労力が必要となります。会員の皆さんや皆さんと知り合いの方々などのご協力を心からお願いいたします。

**今年の国会請願日は、5月です!
間近に迫りました!**

会員の皆さん。治安維持法同盟は、1974年以来毎年粘り強く署名を集め、国会請願を行っています。

署名活動は、国民へ働きかけ

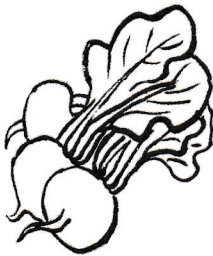
る最も基本的な活動であり、私たちの運動を国民的運動に発展させる基本です。

署名活動は、また同盟活動の質的強化にも、大きな役割を果たします。

今年の国会請願日は、5月です。後4ヶ月、間近に迫りました。全国で活発な署名活動が展開され始めています。

京都では、1万筆の目標を掲げて頑張っていますが、大変遅れています。

会員の皆さん。ご家族やお知り合いの方々、所属団体の皆さんに、署名用紙を預け、署名をお願いして下さい。



没後77年河上肇さん命日お墓参り!

～哲学の道・法然院・吉田山散策～

日時 2023年1月30日 (月曜) 午前10時集合
白川今出川 京都銀行銀閣寺支店前集合

哲学の道→法然院→河上肇お墓→真如堂→吉田山→吉田神社→
京都大学 解散 1時頃

○担当 林 070-1768-4017 マスク持参